

逸題

山内容堂

風妖雲を捲て日斜をらんと欲す

多難意に閑して家を思わず

誰か知え此の裏余裕有るぞ

馬を郊原に立てて菜花を看る

〔作者〕

山内容堂（一八二七〜一八七二）江戸時代末期の土佐藩主。名は豊信（とよしげ）、容堂は号。海外の事情に通じた開国論者吉田東洋を登用し、参政に任じ藩政を刷新し朝幕関係の不穩（ふおん）を憂え公武合体を唱えたために大老井伊直弼によって隠居謹慎を命ぜられたが、のち許され幕府や朝議に参与し公武合体に尽くした。一八六七年將軍徳川慶喜（よしのぶ）に大政奉還実現のためその一翼を担った。明治政府の議定に任ぜられ、一八六九年薩長肥三藩とともに版籍を奉還した。その後時事を論ぜず、悠悠自適詩歌風月を愛し明治五年六月二十一日没す。享年四十六。正二位、中納言。著書に「容堂公遺翰」等がある。

〔語釈〕

*逸 題…特に題をつけない詩 失題 無題 *妖 雲…あやしいけはいのある雲 ここでは外国の艦船が海辺に出没することを云う *郊 原…のほら

〔通釈〕

風は怪しげな雲を巻き日も西の山に沈もうとしている。今国家は前途多難の時であり、家の事など考えてはられない。こうした事は、前々から考えていた事で、そうした中でもゆとりがあるのを誰が知るであろうか。この様に馬を郊外の原野にとどめ、今を盛りに咲く菜の花を眺めているのである。



山内容堂